

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600673		
法人名	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会		
事業所名	厚真町高齢者グループホームやわらぎ		
所在地	北海道勇払郡厚真町字本郷236番地6		
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyoCd=0173600479-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、のんびり、楽しくを目的に、いつでも、どんな時でも、温もりと安らぎのある生活を目指して取り組んでいます。
施設敷地内には大きな畑、リンゴの木などがあり、農作物などの栽培と収穫を楽しんでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「厚真町高齢者グループホームやわらぎ」は、開設22年目を迎える1ユニットの事業所で厚真町社会福祉協議会が町の指定管理者として運営を行っている。静かな住宅地域に位置し、小規模多機能ホーム、高齢者支援ハウスが隣接し「ともいきの里」として町民福祉の支え手となり運営に臨んでいる。感染症の流行により家族会や地域交流、ボランティアの受け入れは自粛中であるが、広大な敷地を活かし、利用者がこれまで通りに畑作業や果実、花などを栽培できる環境や生活リハビリの環境を整え、利用者の豊かな生活が維持されている。自前のピザ窯にて収穫したハーブやトマトを乗せたピザや紫蘇ジュース、食用菊の酢の物など、採れたての食材を使い多彩な食の支援を行っている。昨年3月には感染予防が長引く中での問題点、課題を目標達成計画に取り上げ、感染対策を講じての家族面会や外出、行事開催の実現に取り組み利用者支援の質の確保に至っている。ケア記録表と介護計画全体を分かりやすくした書式により、計画と支援後の状態が明確になるなどケアマネジメントの改善と共に支援力を高めている。骨折して入院し退院後の生活の中で医師から看取りの意見が上がっていた利用者では、職員と看護師の医療と介護を合わせた計画と支援により離床やミキサー食等も可能になるなど健康や生活状況が回復した事例がある。職員が力を合わせて「ゆったり、のんびり、楽しく」利用者が主役」を体現している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は事業所内に掲示している。以前は毎朝引継ぎ終了後に皆で理念を唱和していたがコロナウィルス感染症予防のために声を出し唱和することは中止している。	地域密着型の意義や役割を盛り込んだ5つの運営方針を定め、当指針に基づく事業所独自の理念を標榜し事業所内要所へ掲示している。ケア会議にて周知し、日々のサービス提供場面で理念がケアに反映されるよう意識づけを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこども園、小中高(学校)との交流機会を毎年予定していたがコロナウィルス感染症予防のために中止している。	感染症の流行以前に行っていた教育機関やボランティア、隣接する各施設との交流は中止や自粛となっている。感染症の収束後は利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りや地域で必要とされる活動や役割を積極的に担えるよう取り組みを推進する考えを示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取組はないが、法人本部と連携しながら支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の意見がある場合は、事業運営の参考にしている。	小規模多機能ホームとの合同にて参集、又は書面にて開催し、家族会、民生委員、自治会員、ボランティア団体、地域包括支援センターの出席を得ている。利用者の状況や行事、感染対策について報告し意見交換を行っている。意見や要望、助言等を運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から町福祉担当とは連絡を取り合い連携している。	当事業所はもとより、「ともいきの里」3事業体の共通の課題や意見等を町と連携し、町民福祉の充実に向け協働関係を築いている。介護保険制度や感染対策等について指導や助言を得て適正な運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の指針を示し、手引を介護員に配布している。身体拘束委員会や職場内研修で身体拘束をしないケアについて話し合っている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、3か月に1度、身体拘束委員会を開催している。委員会では不適切ケア・虐待・日々のケアについて確認している。これらに係る年2回の内部研修ではスピーチロック・具体的事例11項目について学んでいる。夜間帯のみ玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の理念を示し、手引を介護員に配布し理解を深めてもらうとともに、職場内研修にて虐待に関する意識を高めている。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、十分な研修の機会を得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解がいただけるよう、丁寧に説明するように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者家族会を開催し、要望や意見をいただく機会を設けていたが、コロナウィルス感染症予防のために家族会の開催は中止している。電話連絡で近況報告も兼ねて意見聴取に努めている。	年3回の家族会や事業所行事への招待は中止となっている。年4回の広報誌と個別の写真の送付や電話で利用者の状況を伝えると共に家族と接する機会には要望等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。利用者からは生活の意向等を聞き支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談の場において意見を聞くように努めている。	管理者による年1～2回の個別面談を実施している。毎月の職員会議で職員意見を聞き、情報を取り入れ一緒に話し合いながら調整している。また、3つの内部委員会があり、職員がそれぞれ業務分掌に取り組んでいる。ともいきの里管理者会議で今後の行事等の運営について検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や退職金の支給制度の整備など、現状でできる限りの労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職場内研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、近隣事業所との交流する機会は中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族やサービス事業所から情報を集めるとともに、サービス開始後も本人に意向を確認するなど関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と面談するとともにサービス開始後も意向の再確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時の相談機会において、ほかに適当と考えるサービスについても説明する事で他の選択肢も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊仕事や調理、裁縫など利用者が得意なことを職員が教えてもらうなど、暮らしをともにし支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などにおいてご家族の役割などを共に考え、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別での外出支援において、行きつけであった商店で買い物をしたり町内の馴染みのある場所に出かけ外食などもしていたが、コロナウィルス感染予防のため外出を自粛している。	毎週水・木曜日に訪れていた馴染みのボランティアとの交流は自粛中であるが、個別に行きつけの地元店での買い物支援や旧宅への衣類調達、通院後に自宅前を通っている。現在まん延防止期間により家族面会は中止であるが、緩和時期は玄関先で感染対策を講じ対応し、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握に努め、円滑な人間関係が保たれるとともに孤立しないよう留意している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があればフォローアップする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を記録し、ケア会議等で検討している。	日々の関わりの中で利用者の意向を把握したり、言葉や表情などから確認するようにしている。職員1人ひとりの把握の違いはあるが、それぞれの視点をケア会議で共有し根拠を求めた話し合いに至っている。個人記録の記載方法を改善し利用者の「本人はどうか」の視点が読み取りやすくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にこれまでの生活歴について聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケア会議により日頃の状況について把握、共有に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議においてモニタリングを行い介護計画を作成、修正している	毎月のケア会議で利用者全員のカンファレンスを実施している。短期目標ごとにモニタリング・アセスメントを行い、関係者間の意見を反映させ現状に即した介護計画を策定している。新書式の介護計画一覧表により介護計画に沿った支援の意識づけが更に進み、効果を上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日のケア記録を作成しており、介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化するニーズに対して柔軟に検討し、事業所だけでなく、ともいきの里全体で支援できることはないか検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体や他事業所との交流を通して楽しむことができるよう努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に沿ってかかりつけ医に定期受診している。	希望するかかりつけ医の受診が可能である。内科協力医療機関による冬期間(12月～2月)の往診態勢を整えている。町内医療機関は事業所で通院対応し、町外は家族対応を基本としている。医療連携で週2回、看護師が訪れている。「入居者受診・往診記録簿」に結果を記し、家族と情報交換している。	

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築しており、週2回程度、契約看護師が事業所を訪問している。適宜看護師との相談、連絡ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換に努めており、できるだけ早期に退院ができるよう連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を構築するとともにターミナルケアに関する指針を策定している。これを利用者家族に説明、同意を得るとともにチームで支援できるよう努めている。	利用開始時に「重度化した場合の看取り指針」「看取り介護についての同意書」を説明し、看取り開始の際に改めて同意を得ている。事業所、家族、主治医等の関係者間で話し合いを重ね、今後の方針を決めている。看取り支援も実際行っており、その際は看取り計画書を策定し介護と医療のチームケアにて支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や体調急変マニュアルを作成し、職員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成している。定期的に避難訓練を実施している。	令和3年6月に夜間帯における職員招集抜き打ち訓練、12月は消防署協力の下、火災・日中想定避難訓練と水消火器の実射訓練を行った。今年度内に、想定される自然災害の図上訓練を予定している。災害備蓄品を確保し、現在、自然災害発生時における業務継続計画の策定に取り組んでいる。	感染症の収束状況を見ながら、災害時における地域との協力体制の構築に向け取り組む考えを示しているため、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する指針を定め、個人情報の取り扱いには十分配慮している。本人の生活歴や性格を尊重した言葉かけ、支援に努めている。	職員は身体拘束委員会や内部研修で不適切ケアについて学び、尊厳を重視した接遇に努めている。運営法人顧問弁護士による職員倫理の全体研修が予定されている。個人記録類は保管場所を取り決め管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で職員都合を優先せずに利用者一人ひとりのペースで個別にあった柔軟な支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や施設行事などで化粧や洋服でのおしゃれの支援を実施している。理美容については定期的に訪問理容を活用している。また希望があれば希望する店舗でサービスが受けられるよう支援している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取制限のあるものに配慮しつつ個人の嗜好を取り入れるよう考えている。野菜の皮むき、下膳や茶碗拭きなど準備、片付けをいただいている。職員も利用者と同じ席で一緒に食事を摂っている。	献立は栄養バランスや利用者の好みを反映させ職員が作成し、季節の行事食での手作りオードブルや誕生日には本人の好きなものを提供している。地産食材のお裾分けや畑で収穫した野菜、果物を取り入れた大変豊かな食である。食事一連の作業では齧足を食べやすく切るなど腕前を振るう利用者もいる。おやつ作りにも利用者が参加し、昔懐かしい「デンブがき」も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録によって食事、水分摂取量を把握し、過不足がないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄、口腔ケアを実施し口腔内の状態も確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録によって排尿、便の間隔や時間を推定し排泄の自立にむけて支援している。	ケア記録に個々の排泄状況を分かりやすく記録し、利用者の状態像を把握して本人に適する排泄支援を行っている。仕草やサインを読み取り事前誘導で失禁を防いでいる。現在、夜間帯に排泄に起きる利用者は稀で安眠、熟睡者が多い。週1回福祉用具業者の訪問があり、状態に沿った衛生用品等の助言が得られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少なくならないように努めるとともに、個別に牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供している。また、体操や散歩など身体を動かす取り組みも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれ入浴日は決めさせていただいているが、その日の本人の気分などで入浴を嫌がってしまうときは別の日に変更したり柔軟な対応を行っている。	入浴は午前、午後の時間帯を設定し、概ね利用者1人が週2回入浴している。入浴を億劫がる利用者へは前向きになる声かけや入浴剤を利用者に入れて貰うなど工夫している。リフト浴があり重度化の利用者を含め全員が湯船に浸かっている。同性介助にも応じ羞恥心等に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠だけではなく、日中もこまめに休息できるように、照明の明るさや室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容を確認しやすいように書類整理しており薬剤の重要性を理解して支援している。不明な点は医師、看護師に適宜確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを活かしながら、家事、買物。レク、畑仕事などに取り組んでいる。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、ドライブ、外食などを定期的に計画している。	感染症の流行により交流的な外出行事は見送られているが、感染対策を講じつつ気分転換や五感刺激の機会を設けている。敷地内の散歩や散策、畑作業、ドライブで町内の桜見学や近隣町へ菜の花畑を見に出かけている。個別支援で商店への買い物や旧宅へ衣類を取りに同行するなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が少量の金銭を自己管理して買い物等に使用している。その他の方は家族と相談のうえ行事等で少額の金銭を渡し自身で支払い等ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族や知人に電話をされたり、手紙の書いて投函できるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は食卓とリビングを分けて、くつろげる空間づくりに努めている。また季節に応じた装飾に取り組んだり、利用者が作成した作品などを掲示している。	全体的に木の温もりが感じられる広い造りで、窓から周辺の景色が見渡せ開放感がある。ダイニングとリビングを分けメリハリをつけている。リビングに2台テレビを設置し好みの番組視聴に配慮し、ソファコーナーも充実させている。文化祭に出展した利用者の作品を掲示している。トイレの表示を大きくし分かりやすくしている。今年度2台エアコンを設備し、快適に過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数人が座れるソファを設置し、気の合う方と座ったり談笑している。また、職員が利用者の状況に配慮して落ち着いて過ごせる場所への誘導に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染み深い使い慣れた物品を居室に置くことで少しでも居心地が良いと感じられるように配慮している。	居室には電動ベッド・クローゼット・洗面化粧台等が備え付けられ、馴染みの家具や調度品が持ち込まれている。愛着ある品々や出窓の棚にも好みの物を置き安心できる空間をサポートしている。身体状況に応じて配置を変更し動線を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を出したり、トイレに「便所」という貼り紙をするなどの工夫により自立した生活につながるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 厚真町高齢者グループホームやわらぎ

作成日：令和 4年 3月 28日

市町村受理日：令和 4年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との協力体制の構築ができていない。	地域の方々により多くやわらぎを知っていただき、災害時だけではなく日頃から協力し合える環境を整える。	コロナウィルスの感染状況を見ながら、やわらぎとしての地域での役割等を考え、地域の方々と協議できる環境を整える。	令和4年度に整備開始する
2	35	災害時の備蓄品、地域住民との連携をこれまで以上に整備する必要がある。	自然災害を想定した災害対策の強化。	マニュアルの点検や見直し整備、災害備蓄品の充実を図る。	令和4年度に整備開始する
3	8	日常生活自立支援事業や成年後見制度について十分な理解が得られていない。	全スタッフが制度の説明ができるようにする。	外部研修の参加や定期的な内部研修を実施し、繰り返し学習することでスタッフ間で知識を共有する。	令和4年度に整備開始する
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。